「感染症と差別」と題する公民館主催研修会におけるコロナ時代の禁煙推進活動

Promotion of smoking cessation in the workshop "Infectious Diseases and Discrimination" organized by the Community Center in COVID-19 era

近江八幡市立総合医療センター　細川洋平

近江八幡市岡山学区まちづくり協議会　深尾甚一郎

近江八幡市岡山学区人権尊重のまちづくり推進協議会　今井良治

【はじめに】筆者が仲間と進めてきた近江八幡市での地域禁煙推進活動は第13回本学会学術総会でGRP大賞優秀賞を受賞した。関係各位、会員諸氏に感謝したい。一方、2020年1月中旬に国内で感染者が確認されて以後、国内外で感染拡大するCOVID-19のために集合研修開催が困難となっている。その中で、8月末、「感染症と差別」と題する地域コミュニティーセンター（以下、CC）の人権研修会で講演する機会を得て今までの地域禁煙推進活動とGRP大賞優秀賞受賞を報告するとともに、電子タバコを含めた喫煙が重症化因子の一つであることを呈示し、さらに「COVID-19感染者に対する差別・中傷防止宣言」を提案したところ採択されたのでその経緯を報告する。

【経緯】緊急事態宣言解除後に、CCから前述の講演依頼があり受諾した。医学的情報提供に留めず、自身を含めて身近な方の感染が明らかになった場合の対処の仕方を地域の方々と一緒に考えることにし、回答者が自らと向き合える事前住民アンケート実施を依頼した。講演会開催前週に島根県内私立高校寮、奈良県内私立大学ラグビー部寮でクラスターが発生し、差別的反応が看過しにくい状況となり、8月25日に文部科学省大臣が緊急メッセージを発表したこともあり、前述の差別・中傷防止宣言を提案した。

【結果】３密防止等の感染対策を十分に行った研修会の参加者は40数名で、地元ケーブルテレビ取材があった。講演第一席ではCC長が事前アンケート結果集計を説明した。第二席では医師がCOVID-19感染症についての国立国際医療センターによる中間報告を活用し、重症化因子としての電子タバコを含めた喫煙と禁煙の重要性を強調し、身近な喫煙者には禁煙外来受診を勧めるように参加者に依頼した。また国内で発生した差別案件を取り上げつつ、アンケート自由記載意見を活用し、COVID-19への対処法を一緒に考えた。「新型コロナ感染症になっても安心して暮らせる学区民宣言」は満場一致で採択された。

【考察】事後アンケートでは、事前アンケートにより住民の現状や不安が講師に伝わり、それを受けて講師が分りやすく説明したことで、感染対策、差別・中傷防止を自分たちのこととして捉えていることが明らかになった。さらに、研修会終了後、防止宣言は当該地域自治会長会議で満場一致で採択され、CCの枠を超えて市役所を巻き込みながら、住民の手により推敲が重ねられていた。今後の住みやすいまちづくりに繋がっていくことを期待している。